

花さき山

タイトル文字: 滝平二郎



育児コンサルジュ

明野図書館では毎週、
火曜・木曜 10:00~14:30

ブックスタートクラス

☆幼児向けおはなし会☆

10月10日、24日 ⇒10:00~
17日 ⇒10:30~

31日 「ウンバット エクササイズ」
(親子体操教室です)

日時: 視聴覚室 10:30~

☆10月のおはなし会☆

10月6日(土)

11:00~11:30

明野図書館 児童室でお待ちしてます!

音読会

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 10月9日(火)

11:00~12:00

気軽に発声練習してみませんか?

大人向けの音読会です。

もちろんお子さんも参加できますよ☆

10月のテーマは、『浪曲』!



つくってかざろう!

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 10月28日(日)

11:00~12:00

みんなで一緒におりがみを折りましょう☆
お申込不要。大人の方もぜひどうぞ!



ハロウィンパーティー

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 10月27日(土)

10:00~12:00

今年もハロウィンの季節がやってきた♪
楽しいお話や歌がまってるよ。
仮装しての参加も大歓迎!

10月はこども向け映画会

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 10月20日(土) 10:30~

内容: ・「忍たま乱太郎の宇宙大冒険」
夏休みのとは別物です。(上映時間: 50分)

※お申込不要です。無料でご覧いただけます。



《10月の特集コーナー》

場所: 明野図書館 カウンター前

「特集コーナー」

テーマは「読書の秋」

チェックを忘れずに!

ブックカバーを作ろうよ!

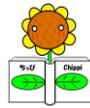
場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 10月13日(土) 10:30~12:00

小学生以上 先着10名 (9月15日~受付)

持ち物: ブックカバーに使う布





自由民権加波山事件の真実を求めて —壬生・栃木・佐野への研修と研究会誌の出版—

桐原光明

自由民権加波山事件研究会では毎年6月頃研修旅行をする。今年は「明治維新150年自由民権加波山事件と高杉晋作・鯉沼九八郎・田中正造ゆかりの地巡り」と題して、壬生町・栃木市・佐野市に出かけた。広報ピープルで、市民に呼びかけ、郷土史会にも訴えた。36名の参加の下、楽しく有意義なバス旅行となった。今まで、知られていなかった歴史的事柄を当地の学芸員に伺うことができた。きわめて貴重な内容であった。例えば、剣術修行の目的で20歳の長州藩士高杉晋作が茨城・栃木に来て壬生の松本五郎兵衛に惨敗し、剣術家をあきらめたこと。鯉沼九八郎は自由民権加波山事件の関係者で、県会議員をした人だが、その屋敷はない。人民救済の為、政治活動やら、事業を行い、全ての財産を投げ出した。いわゆる典型的な井戸堀議員であった。現在鯉沼九八郎の屋敷跡は古井戸が田んぼに残るだけとなっている。墓地も見つけにくかった。この研修で自分たちが史跡を発見した。

佐野では、田中正造記念館に今上天皇が展覧された。田中正造は公害反対闘争の指導者であったことの説明は詳しくあった。栃木県で憲法草案作りに関わり、明治14年には自由党党則会議に2番席次で参加していることは説明がなかった。私に取り繕った。

今回の研修旅行ではいろいろ学習し、成果があげられた。一番圧巻だったのは、鯉沼九八郎の「血染めの掛け軸」を見たことだった。さらに、鯉沼九八郎の家系を知る上で、鯉沼房子さんの存在を知ったことだった。どちらも壬生町ボランティア会長の藍田収氏の尽力が大きい。

往復のバスの中で、旅行の感想をみんなで出し合った。言うだけではもったいないのでそれを研修旅行特集という形にして、自由民権加波山事件研究会誌「自由立憲政体の魁」第3号として、出版することになった。

研究会誌「自由立憲政体の魁」第3号の口絵写真には参加者と研修先の見所が生き生きと写っている。3枚目には、仙波兵庫が作った私塾研光社学館の卒業証が写っている。茨城県では比較的初期の政治結社と思われる。会誌論文執筆者は13名だが、16編の論文は充実した内容である。壬生町の藍田収氏から、特別寄稿をいただいた。今まで明確でなかった鯉沼九八郎の家系・生家・墓地などの調査結果を報告し、解説いただいた。小倉信一氏・古谷晴茂氏からは鯉沼九八郎の生家写真が「東陞民権史」「壬生町史」では違うと疑問が寄せられ、その違いをそれぞれ解説くださった。鯉沼九八郎が爆弾製造中暴発により、左腕を負傷した時の「血染めの掛け軸」が本邦初公開された。

小倉信一氏は明治17年9月23日加波山事件の志士が辿ったと思われる加波山頂への道程を事実に基づき、精細な時間と距離を場所毎に実証した研究を発表している。これだけの研究は前代未聞である。特筆すべき研究成果である。

今後の課題は加波山事件の下館出身参加者保多駒吉、富松正安、玉水嘉一の栃木県内自由民権運動との関係を明確に研究することである。それが真相究明に欠かせない。

(きりはら みつあき／加波山事件研究会長・知正学者)